

平成21年度 イネ縞葉枯病情報 第1号

平成21年4月16日
島根県病害虫防除所

4月上旬に出雲市周辺の圃場・畦畔でヒメトビウンカのすくい取り調査を行ったところ、越冬世代成虫の生息密度が近年になく高まっています。今後、本虫によるイネ縞葉枯病の伝播・感染が懸念されるので、現地では発生状況の把握に努め、箱施薬の徹底など適切な防除対策を講じてください。

記

1. 病害虫名 ヒメトビウンカ（縞葉枯病）
2. 発生地域 出雲地方
3. 発生時期 主として6月上中旬～（第1世代成虫）
4. 発生量 多い
5. 根拠
 - 1) 4月中旬に出雲市周辺の圃場、ムギ畑、周辺の畦畔などで20回振りのすくい取り調査を行ったところ、ヒメトビウンカの捕獲数は0.76頭（平年0.03頭）、捕獲圃場率は59.1%（平年2.5%）で平年に比べて多い。
 - 2) 捕獲したヒメトビウンカ成虫についてイネ縞葉枯病ウイルスを調査したところ、保毒虫率は11.4%と高い割合を示した。特に、昨年縞葉枯病が多発した地域で捕獲したヒメトビウンカの保毒虫率は高い傾向にある。
 - 3) 1ヶ月予報（4月10日広島地方気象台発表）によると、気温は平年に比べて高く推移する見込みであり、ヒメトビウンカの増殖に好適な条件が予想される。
6. 防除対策及び防除上の注意事項
 - 1) 水稻移植時にはウンカ類に効果のある箱薬剤を施用する。必ず決められた使用量を施用する。
 - 2) 圃場の耕起や、畦畔などの草刈りをする事でヒメトビウンカの密度低下を図る。
 - 3) ヒメトビウンカの飛び込みによるウイルス伝搬を防ぐため、イネ科雑草地や麦類圃場近辺での育苗は避ける。
 - 4) 麦類が栽培されている地域では、赤かび病防除と併せてヒメトビウンカの防除も行う。
 - 5) 窒素過多な栽培は縞葉枯病の発生を助長するので適切な肥培管理に努める。
 - 6) H20年のようなヒメトビウンカの多飛来も懸念されるので、今後の発生予察情報に注意する。
 - 7) 薬剤の使用に当たっては、農薬の使用基準ならびに農作物病害虫雑草防除指針の注意事項を遵守する。